



Q

認知症の初期のころは、どう対応されていきましたか？

A

母の行動に対して「何でこんなことをするの…」と思ったこともありましたが、こっそり様子を見ながら見守りました。命の危険がない限り、手出し口出しはせずに見守ることにしました。何が本人にとって問題なのかを考えていました。

Q

気分転換に、どのようなことをされていきましたか？

A

自分のために使った時間もあるが、将来のために母の物を片づけていました。

Q

介護したご家族の中に、パーキンソン病の方がいたと話されていましたが、気をつけていたことはありますか？

A

舅がパーキンソン病を患っていました。食べ物を誤嚥しないように気をつけていました。同じ病の知人は、シルバーカーを押して歩行訓練を行ったり、友達にメールしたりするなど、積極的に人と関わっていると聞いています。

介護の体験を

聴いてみよう！

夫の母を介護した体験談



6月に「介護の体験を聴いてみよう！」をテーマに学習会を開催しました。大舅、舅を立て続けに介護された方に、今回は夫亡き後に、夫の母を介護した体験についてお話いただきました。介護する過程で感じたことや、経験から生まれた工夫などを伺いましたのでご紹介いたします。



介護に対する思い

- 自分と母の年齢を考えて、母の介護は10年間家で、その後は人の手を借りていこうと決めていた。
- 介護を続けていく上で、悲観的になったり、自分自身を追い詰めたりせずに、また、何よりも自分が怪我をしないように気をつけた。気になることがある時は、信頼できるケアマネジャーや医師に相談した。



母のこと…

- 介護をしていく上で、母の生い立ちや人柄、好きなことを知りたかった。しかし、母に聞いても「昔のことだから忘れたわ…」と自分のことは話してくれなかった。それならば、普段からよく注意して母の嫌がることだけは覚えておこうと思った。
デイサービスを利用する時やグループホームに入所する時には、母が不安にならないように、母の嫌がることを、ケアマネジャーさんにも伝えた。
- 母は自分のことも話さないが、人の悪口や愚痴、余計なことも決して言わない人だった。自分も嫁の立場として共感できることであった。程よい距離感で、つかず離れずに接していると母も安定していた。

参加された方は、「自分が介護される立場になった時のことを考えて、今日学んだことを娘に伝えたい」「大変勉強になりました」と話していました。

ケアラズカフェわたぼうしでは、認知症や介護のことをテーマにした「学習会」を開催しております。お気軽にご参加ください。

